

目 次

第4版まえがき

初版まえがき

第1部 憲法とは何か	1
第1章 憲法の目的とは	2
憲法がたどってきた道 2/ 日本国憲法は近代立憲主義をどのように受容しているか 5/ 立憲主義と日本国憲法 7/ 改憲への動きをみてもみよう 8	
第2章 2つの憲法のあいだに	10
2つの憲法はこうしてつくられた 10/ 大日本帝国憲法の特徴 14/ 日本国憲法の特徴 15	
第3章 人権保障のあゆみ	20
「人権」の普遍性と欺瞞性 20/ 近代人権思想の陰の克服——人権の内実の発展 21/ 近代人権思想の陰の克服——人権の主体の形成 23/ 「人間」の権利をもとめて——不断の努力の必要性 24/ 人権の国際化——人権の本質としての越境性 25	
第4章 政治への参加とかかわり	28
政治に参加する権利——請願権に注目してみる 28/ 選挙原則と選挙権・被選挙権 29/ 選挙制度と投票価値の平等 31/ 政党 32/ 政治分野におけるジェンダー平等 33	
第5章 国会の役割と両院制の意義	36
国会 36/ 両院制 38/ 会期 40/ 国政調査権 41	
第6章 内閣のはたらきと国会との関係	43
内閣 43/ 国会と内閣の関係 45/ 改憲・改革論議のなかの内閣と議院内閣制 48	
第7章 裁判所のはたらきと私たちのかかわり	49
司法権が発動される場合 49/ 中立・公正な裁判の実現 50/ 裁判官の任命と国民意思の反映 53	

第8章	違憲審査	56
	「法律上の争訟」を前提とする日本の付随的違憲審査制 56／ 裁判所は裁判のなかで必ず違憲審査権を行使すべきか？ 57／ 成年被後見人選挙権制限違憲判決にみる違憲審査制の意義と役割 58／ 裁判所による違憲判断の方法——「適用違憲」を中心に 60	
第9章	国民主権の下の天皇制	63
	国民主権によって一新された天皇制 63／ 国事行為による象徴機能と憲法を踏み越える天皇の行為 65／ 天皇制を利用する政治、天皇・皇室を敬愛する国民 66／ 「日本の君主制」の実相 68	
第10章	身近な政治と私たち	69
	憲法が定める地方自治のしくみ 69／ 地方自治を保障する意義 71／ 「充実した地方自治」を支えるもの 74	
第2部	だれの、何のための人権か	77
第1章	国籍で人生を左右される人びと	78
第2章	人格をもつ子どもたちと学校	87
第3章	働く者の尊厳	94
第4章	犯罪・刑罰と人権	102
第5章	市民が表現しようとする	110
第6章	知る権利とメディアの役割	118
第7章	よりよい環境とくらし	125
第8章	個人として尊重され差別されずに生きる	134
第9章	ジェンダーを越えて生きる	142
第10章	人間らしく生きる権利	151
第11章	国家により情報を管理される人	157
第12章	信仰を持つ人と国家の介入	164
第13章	学問の自由と大学の自治	171
第14章	主権者として期待されること	178

第3部 人権の基礎としての平和と憲法改正 187

第1章 平和のうちに生きるとは 188

日本国憲法が描いた平和の原点 188 / 9条の解釈と憲法解釈を理解することの意味 190 / 憲法9条にビルトインされた冷戦の枠組み——米軍と専守防衛の自衛隊 192 / 冷戦の終わりと9条にとっての新たな試練 195 / せり出す軍の論理——2000年代の「テロ」と「有事」 199 / 「禁じ手」の解禁——2010年代の集団的自衛権の容認と安保法制 201 / 見落とされてきた「もう1つ」の潜在的戦力——9条と原子力 205 / 憲法9条の抑止力の源泉——平和を求め続ける「民の声」 206

第2章 憲法改正と私たちの責任 208

憲法を改正するという事 208 / 日本国憲法を改正しようとする動き 209 / 私たちはどうすればよいだろうか 215

インターネットで生きた憲法問題を学ぼう 219

◀ 新聞記者の眼 ▶

- ① 怒羅権とほん 27
- ② 多様性尊重のリトマス紙 35
- ③ 沖縄、米軍基地と戦争犠牲者の尊厳 76
- ④ 朝鮮青年は何のために戦場へ 86
- ⑤ 女性と貧困「彼女は私だ！」 101
- ⑥ 黒髪と人権 109
- ⑦ 見えない悪意と闘う 124
- ⑧ 分断に苦しむ原発被災者 133
- ⑨ ハルモニたちの記憶のバトン 150
- ⑩ ミャンマー 「解放」を伝える一枚 163
- ⑪ 高校生は無力じゃない 185
- ⑫ 離れた島で起きている 207